

紋枯病 (Sheath blight)

Tanatephorus cucumeris



紋枯病の病斑



(準備中)

発生生態

分けつ期頃に水際の葉鞘に発病し、楕円形の病斑を生じます。その後、隣接株や上位葉鞘に拡大していきます。

早植え栽培や分けつの多いほ場で発生が多くなり、気温30℃前後で多湿条件が続くと多発します。

発病すると下葉から枯れ上がり、倒伏しやすくなります。

防除対策

窒素肥料の多用を避け、過繁茂にならないようにします。昨年多発したほ場では、深水管理を避けます。

出穂20日前の発病株率が20%以上であれば、薬剤防除を行います。薬剤が発病部によく付着するように、株元を狙って散布します。